

* * * *

ホソバノツルリンドウは従来、東アジアの大陸部と樺太および日本に分布することが知られていた。最近、台湾産植物の調査（代表者 大橋広好東北大学教授）により、2度にわたって本種が採集されたのでこれについて報告する。ホソバノツルリンドウの分布は、最も近縁なシロウマリンドウ属 *Gentianopsis* の東アジアにおける分布とよく似ているが、後者のような地域的な種分化は認められない。なお、大井の日本植物誌 (Ohwi 1953, 1965) などに、ホソバノツルリンドウ属 *Pterygocalyx* には数種があり、多年草となっているのは誤りで、本属は1属1種で、1年草（越年草）である。これは *Pterygocalyx* と *Crawfurdia* を混同したことから生じたものではないと思われる。

○Materials for the distribution of lichens in Japan (10) 地衣類分布資料 (10)

○ *Parmelia crenata* Kurok. This species was described in 1964 (Hale & Kurokawa, Contr. U.S. Nat. Herb. 36: 121-191) on the basis of a specimen collected on Mt. Kuishi, Prov. Tosa, south-western Japan. It was reported from Papua New Guinea by Gressitt et al. (Science 150: 1833-1835, 1965). However, Kurokawa (in S. Kurokawa: Studies on Cryptogams of Papua New Guinea 125-148, 1979) excluded the species from the lichen flora of Papua New Guinea. Consequently, this species is at present known only from the type locality. Among lichen specimens preserved in TNS, two specimens collected in Japan, one from Prov. Musashi in eastern Japan and the other from Prov. Awa in south-western Japan, are identified with *P. crenata*, because of the presence of dichotomous rhizines and cylindrical isidia and the production of atranorin, norstictic acid, and stictic acid. Outside of Japan, in addition, six specimens of this species have been collected: three from Taiwan, one from Thailand, and two from Java, as shown below.

Specimens examined. Japan. Honshu. Prov. Musashi: Mt. Mitsumine, Chichibu, elevation 1100-1332 m, S. Kurokawa 64318 (TNS). Shikoku. Prov. Awa: Mt. Ohmori, Kitoh-mura, Naka-gun, elevation about 800 m, S. Kurokawa 83036 (TNS). Taiwan. Chiayi Pref.: En route from Susulu to Mt. Ali, elevation 2000-2200 m, S. Kurokawa 628 (TNS, LD, TAI) and 629 (TNS). Kaoshing Pref.: Shunshan, Mt. Nanfong, elevation about 1200 m, S. Kurokawa 2927 (TNS). Thailand, Prov. Chiang Mai: Maetang District, elevation about 1000 m,

S. Kurokawa 1777 (TNS). Indonesia. Java: Mountain Garden of Tjibodas, elevation about 1400 m, S. Kurokawa 2159 (TNS, MEL) and 2172 (TNS).

クイシウメノキゴケ (*Parmelia crenata* Kurok.) は、土佐の工石山産の標本をタイプとして記載された (Hale & Kurokawa 1964)。その後、Gressitt et al. (1965) はパプアニューギニアでゾウムシの背に着生する地衣のなかに、本種が含まれることを報告したが、著者 (Kurokawa 1979) は、同地のウメノキゴケ属をまとめた折に、そのフロラから除いてしまった。したがって、現在知られている本種の確実な産地は、タイプロカリティだけということになる。科学博物館所蔵の日本産 ウメノキゴケ 属標本には、本種と同定されるものが2点あり、1つは秩父、三峰山、他の1つは阿波の大森山で採集されている。なお、本種は台湾、タイ、ジャバでも採集されている。どちらかと言えば稀産の地衣であるが、東アジア要素の1種であろうと思われる。本種は外形上は、コウヤウメノキゴケ (*P. koyaensis* Asah.) によく似ているが、アトラノリンのほかにノルスチクチン酸およびスチクチン酸が含まれているので、容易に区別することができる。

(国立科学博物館 黒川 遼, Syo KUROKAWA)

□Pradyumna P. Karan: **Bhutan: Development amid environmental and cultural preservation** 155 pp.+1 folded map. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京. 非売品. 同研究処の Monumenta Serindica No. 17 で、飯島茂氏が協力している。ブータンに関心のある人なら著者のブータン全図 (1965) をご存知だろうが、本書にはその改訂版といえる約65万分の1の地図 (Gyula Pauer 制作) が添えられている。内容はブータンの政治経済的発展の基礎となる諸問題を、いろいろな観点から論じたものだが、たくさんの写真 (モノクロム) と共に25年間にわたる著者の現地調査の蘊蓄をかたむけたものである。本書は研究用の交換、寄贈以外は頒布は行わないとのことである。

(金井弘夫)

□Stephen G. Haw: **The Lilies of China** 172 pp. 1976. B. T. Batsford, London. £17.94. 中国植物志14巻百合科(一)(1980年)のうち *Lilium*, *Cardiocrinum*, *Nomocharis*, *Notholirion* の部分 (梁松筠 Liang Sung-yun 分担) の英訳が約半分を占め、著者による「自然状態の中国の百合」、「中国産百合の増殖と栽培」、「中国の百合の歴史」、「中国の *Lilium* の分類」の項が付け加えられている。著者は中国語を専攻した人で、自身も園芸植物に関心があり、中国に在住したり、植物調査隊に同行したりして植物分類学に通じており、本書の中では *Lilium* 属の二つの新 section を発表している。カラープレート8頁つき。

(金井弘夫)